

# Newsletter from KUIS Research Institutes

vol. 6  
2024.11.15



神田外語大学 附属研究所 —— 言語教育研究所 / 日本研究所 /  
グローバル・コミュニケーション研究所 / 学習者オートノミー教育研究所

## 所員・運営委員の先生に聞く！ 「研究テーマ」

### 日本研 「日本の保守的な政治を研究」

Jeffrey James Hall 先生（国際コミュニケーション学科）

2021 年より国際コミュニケーション学科で講師を務めています。日本の保守的な政治活動に関する研究を行い、特に歴史認識や領土問題に焦点を当てています。2021 年には『Japan's Nationalist Right in the Internet Age』という書籍を出版し、日本におけるオンライン保守運動について発表しました。特に、保守派活動家が YouTube などの新しいメディアを利用して抗議運動を動員する方法について研究を行ってきました。さらに、日本の政治における宗教団体の役割についても執筆しており、このテーマに関する章が 2024 年 11 月にハワイ大学出版の『New Nanzan Guide to Japanese Religions』に掲載される予定です。また、自身の YouTube チャンネル「Japan Matters」での動画制作や海外メディアとの交流を通じて、日本の政治と社会についての国際理解を深めることを目指しています。



### GCI 「小さな島の、大きな課題」

高橋 麻奈 先生（グローバル・リベラルアーツ学科）

人口約 1700 人、面積約 260 平方キロメートル、ポリネシアに浮かぶ絶海の孤島「ニウエ」は、Rock of Polynesia（ポリネシアの岩）と呼ばれる、珊瑚礁でできた小さな島国です。1974 年にニュージーランドの自由連合関係になり、自治権を獲得しました。ニウエのような小島嶼開発途上国（SIDS: Small Island Developing States）は、その地理的状况から、経済的・環境的な外的要因に対して極端に脆弱ですが、こうした国々やその社会、直面するリスクについては、あまり知られていません。しかし、このような小さな島国にも、伝統や文化が生き、豊かに人々が日常を営んでいるのです。この小さな島国に、グローバル社会の変化はどのような影響を与えのでしょうか。どのように国家が統治（ガバナンス）されているのでしょうか。小さな島で暮らす人々の人権を安定して守るためにはどのようにすればいいのでしょうか。グローバル社会はどのような責任を果たさなければならないのでしょうか。

私は、オセアニアの小島嶼国をフィールドに、「脆弱な社会における法の支配とガバナンスにおける課題と、人々の人権を守るための方法」について日々考えを巡らせつつ、時々小さな島に行き、ココナッツを飲みながら島民たちと語り、ポリネシアンダンスを踊り、島の人々の様子を絵に描き、論文を書いています。この研究がいつか、持続可能な開発目標（SDGs）の基本理念である「誰ひとり取り残さない世界」を本当の意味で実現していくために、少しでも貢献できることを目指しながら。

## 【RILAE】最近のイベント & 出版物

### 最近のイベント

■ Humanising Technology in Language Learning and Teaching (言語学習と教育におけるテクノロジーの人間らしさとは)

Presenter: Hayo Reinders, Anaheim University, USA and KMUTT, Thailand.

Tuesday October 8th 2024 / 2024 年 10 月 8 日 (火)

■ Do online and face-to-face language learning differ? The case of grit and flow (オンラインと対面の言語学習に違いはあるのか? グリットとフローの事例から考える)

Presenter: Michał B. Paradowski, Institute of Applied Linguistics, University of Warsaw

Thursday 31st October, 2024 / 2024 年 10 月 31 日 (木)

### 開催告知

■ CLIL (Content and Language Integrated Learning) and Learner Autonomy 13th LAb Session (CLIL (内容言語統合型学習) と学習者の自律性)

Friday 29th November, 2024 (Online) / 2024 年 11 月 29 日 (金)



### 新しい出版物

Studies in Self-Access Learning Journal (SiSAL). September, 15 (3). Edited by Jo Mynard, Dominique Vola Ambinintsoa, and Eduardo Castro.



## 【GCI】講演会 報告

### 講演会「中国における外国人コミュニティの形成と変容」を開催 (10 月 3 日)

中国・広州大学の周雯婷氏をお招きし、地理学的視点から中国における日本人および韓国人の集住地域の変容と発展について、ご講演いただきました。講演会報告は研究所ホームページをご覧ください。



講演会報告

◀ 講師の周先生

## 【日本研】講演会 報告

### 講演会「洋学単語帳にみる異文化交流」を開催 (11 月 6 日)

図書館主催の展示会も同時開催 (11/6 ~ 15) し、多くの皆様にご参加いただきました。「講演要旨」は、2025 年 3 月刊行の『日本研究所紀要第 17 号』に掲載予定です。



▲ 講師の松田清先生 (右) と司会の町田先生 (左)

### 開催中

2024.9.20 ~ 2025.7.31

## 【日本研イベント案内】第 3 回神田佐野文庫常設展示「終戦後の英語ブーム」

ペリー来航 (1853 年) によって海防が叫ばれ、オランダ語ブームが起きました。最初の英語ブームは明治初年の文明開化期でした。日本近代化の成果は 1945 年の敗戦によって崩壊し、連合軍の進駐 (1945 年 9 月 8 日) とともに 2 回目の英語ブームが到来しました。本展では神田佐野文庫の資料 17 点を複製し、終戦後の英語ブームを紹介します。

監修：松田 清 先生 (日本研究所客員教授)



▲ 左『日米エホン』中『ハル ナツ アキ フユ』  
右『ガリバー旅行記』

▶ 展示資料  
詳細はこちら



▲ 展示風景 (3 号館 1 階 展示スペース)

### 展示の複製資料

- |                                          |                              |
|------------------------------------------|------------------------------|
| 1 『英訳戦陣訓』昭和 16 年                         | 10 『英語会話必携』昭和 20 年           |
| 2 『English-Japanese phrase card.』昭和 20 年 | 11 『フクちゃん ABC』昭和 21 年        |
| 3 『日米会話手帳』昭和 20 年                        | 12 『日米エホン』昭和 21 年            |
| 4 『日本語英語商品名早わかり表』昭和 20 年                 | 13 『少国民の英単語』昭和 21 年          |
| 5 『ラジオテキスト実用英語会話』昭和 20 年                 | 14 『ハル ナツ アキ フユ』昭和 21 年      |
| 6 『ラジオテキスト英語会話 No.1』昭和 21 年              | 15 『ガリバー旅行記』昭和 21 年          |
| 7 『日英米ポケット会話』昭和 20 年                     | 16 『ラジオテキスト基礎英語 No.1』昭和 22 年 |
| 8 『ポケット米日会話』昭和 20 年                      | 17 『とても面白い英語すごろく』刊年不明        |
| 9 『速成日米会話』昭和 20 年                        |                              |